

面

121

享年遊び

加 茂 達 彌

元朝の塵金色に昇天す
神棚に塗りものはなし大旦
橋もまた物の怪なるや春の雪
東京や古手の富士に日雷
遠花火明日はひとりになる二人
大口の無口よろしき五月鯉
この墓や花を浴びたる跡もなく
鶏血草かの日も咲いて敗戦忌
かぶと虫汝なも玉音を聞きたるや
吸ふて吐いてわが行末は煙草

ふふふ

北上正枝

三日はや陰陰滅滅たるニューズ
彼の人の訛りあたたか初山河
初東風やきしきしキャベツ剥がす音
尻餅は不意につくもの七草菜
ダイヤモンドダスト食欲旺盛なり
風刺すよう鶴の一声二月尽
絶え間なくどこかが動く鎌鼬
ふふふふ白菜漬の水上げる
冬薔薇乾いた音の別にあり
人体の影の濃淡かげろいぬ

不在

北川 美美

手は水を掬ひにゆきぬ麦の秋
しづかなるじやがいもの花日傾く
白日傘脚美しく迫りくる
欄干がくるぶし高や早草
ゆふべと同じ秋茜かもしれぬ
すでにある脚立と籠や林檎の木
第三京浜より月離れゆく
旅客機の窓ごとに顔秋の暮
凧や狼祀る木の家に
雪原に人のかたちの窪みあり

何だろう

黒川俊郎

万物は陰陽なりや秋簾
前に行くほかにないはず雲に鳥
右耳の喜んでゐる秋の声
混色の果ては黒です秋薔薇
ああも言ひこうも言ふなりががんぼは
死神の嘶の高座神の留守
幸せの松竹梅や栗ご飯
遠雷や猫を描いて虎となす
今日の日の私と影の小春かな
風花のこぼれ来る空静かなる

冬木立

高 橋 龍

明の春彼の日あ或る日にあ後退あとざさり
抜け抜け古文ガイダンスと抜かす陰毛しものけひめはじめ
はからざる業自づからひめはじめ
御無体もこよひはな為されひめはじめ
雛の夜のあられもなきはあねいもと
反り気味にふた双つ尖とんがる春の峰
寝台車下段に涅槃したまへり
囀りの木がいつせいにビビデバビデブ
暮の春肉も魚もなかりけり
海界うなざかへあぢさゐ色の砲ほづつ向け

師弟対談

西東三鬼
三橋敏雄

敏雄氏



俳句よもやま

三鬼氏



戦時下の東京と西東三鬼

自・昭和三年（一九二八）

至・昭和十七年（一九四二）

高橋 龍編

昭和三年（一九二八）二十八歳

齒科医開業中のシンガポールにてチフスに罹り、怠慢の医院開店休業。長兄の指示に従い廃業。借財は兄達が処理。十二月・帰国の途中、上海にたちより、住居を東京市大森区入新井四丁目に移す。齒科医院を開業。

一月一日。前年十二月三十日に開業した地下鉄（浅草・上野間）に元日の乗客が「十万人」にも達した。

三月十五日。共産党への全国的大弾圧、検挙一五六八人。起訴四八三人（三・一五事件）。

四月十九日。第二次山東出兵。

五月二十日。日比谷公園音楽堂「大衆音楽大演奏会」新交響楽団（現・N響）入場料五十銭。

六月四日。張作霖、奉天到着寸前に関東軍の謀略で爆殺される（満洲某重大事件）。

七月三日。全県警察部に特別高等課設置。

同月二十八日。第九回オリンピック・アムステルダムで開催。

東京市内の水泳場、月島二〇、小松川二、吾妻町の放水路内四、品川、大森、羽田海岸一二、尾久（荒川）一、計三十九ヶ所。

両国の川開き。「人出五十万」

八月三日。オリンピックク三段跳びで織田幹雄が優勝。水泳で鶴田義行も優勝。

同月二十七日。パリ不戦条約調印。

十月二日。東京府下四百二十三校で「御真影」伝達式。同月十四日。東京六大学「早慶戦」割れ返る神宮球場。